



# まゐとりの मैत्री

No. 1 創刊夏号 - 2008. 07. 14 -  
東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会発行機関誌



< मैत्री > :maitrī (マイトリー) とは、慈しみ、友情、思いやりを意味する古代インドのサンスクリット語です。

仏教では慈 (いつくしみ)・悲 (あわれみ)・喜 (よろこび)・捨 (とらわれない心) という四つの広大な利他の心 (四無量心) の一つです。

～ ニュースレター発刊に寄せて ～

## 「向下門の哲学」の実践を目指して—東洋大学仏教会・仏教青年会に期待する

東洋大学校友会会長 菅沼 晃

いま、私たちは「混迷の時代」を生活している。前世紀には二度の大戦を引き起こし、あれほどの犠牲を払ったというのに、今もなお、民族・人種・宗教などによる対立・抗争、武力による弾圧や攻撃、テロリズムが絶えることなく行われている。それらの背後にあるのは、人間の飽くことのない欲望追求と、他者を決して認めようとしない自己中心的な執着心、憎悪・怨恨などであり、それらが攻撃と報復の連鎖を引き起こしていることは明白な事実である。日本の社会でも、巧妙な詐欺、偽装、思いも及ばないほどの凶悪・卑劣な犯罪が増加し、「キレル人びと」、「怒る人びと」、「いらつく人びと」、「争う人びと」の出現が社会を根本から変えようとしている。

このような状況のなかで、佛教を学び、佛教を拠り所として生きようとするものは、ただ自分の“安心立命”を求めるだけでよいのか。現在の

末法の世を思わせる社会の出現は、私たちが生活の豊かさだけを追い求め、“諸法無我”の心を忘れた結果ではないのか。このように思ったとしても、自分一人で発言するのともためられる。しかし、何か利他の行いをしたい。このように、佛教の立場から社会に対して発言したい、佛戦の立場に立って現状をよりよいものにしてゆきたい、と願う人びとの思いを結集する集まり、それが佛教青年会である、と私は思う。東洋大学仏教青年会は在学生の皆さんの活動が中心となることは勿論であるが、実は、年齢はほとんど関係なく、佛教に理想を求める者は永遠に青年であると言ってよい。だから、在学生の皆さんも、卒業の方々も、先生方も同じ佛教青年会の会員なのである。このところに、佛教青年会のもう一つの意義がある。

学祖・井上円了博士は、最後の著作となった『奮闘哲学』のなかで、自身の哲学探究の最終的な結論として、哲学には、向上門の哲学と向下門の哲学があるとし、「何のための向上かと言えば、それは向下のためである」と述べている。真理を求めて学ぶのは、結局は人びとを利益するためである、というのである。学祖の仏教観・学問観を示す重要な言葉であるが、真実には、向上と向下は本来不二であり、向上の中に向下がすでに含まれており、向下を離れて向上があるのではない。

このような意味で、この度、東洋大学仏教会と仏教青年会が同時に創立されたことに、私は深い意義を感じる。両者、相俟っての活動こそ、学祖の願う所であり、よりよい成果が期待されるのである。現在、いわゆる「チベツ



ト問題」や宗教対立の問題など、私たち仏教を学ぶ者ものにとって見過ごせない問題が少なくない。しかし、社会に役立つためにといっても、私たちには限度があることも事実であり、とりあえずは、事態を仏教の立場から正確に認識することから出発すべきであろう。

東洋大学仏教会・仏教青年会に、「向下門の哲学」の実践としての活動を衷心より期待したい。

---

## 活仏教

東洋大学仏教会会長 渡辺 章悟

東洋大学仏教青年会は今から百年前に数人の在學生によって結成された。それ以来、実に百年ぶりの再興である。今回は新たに東洋大学の学生サークルである仏教青年会に加え、教職員・卒業生を中心とする東洋大学仏教会を併せて結成し、相互に協力して活動することになった。その目的には学祖の掲げた哲学の理念がある。

学祖井上円了は明治 20 年（1887）に哲学館を開設したが、その際に理念とした哲学は、仏教思想を根源としている。たとえば円了の最後の著書である『奮闘哲学』には、哲学の具体的な姿は仏教であると述べている。さらに注目されるのは、哲学に向上門と向下門があり、哲学の目的は、向下門の哲学であると唱えていることである。向上門とは真理を目指す方向の学問であり、これに対して社会に向けた方向の学問を向下門といい、この向下門こそが真の哲学の目的になるべきであるとした。

この立場から、円了はわが国で初めての通信教育である館外員制度を実行し、日曜講義を始め、修身教会運動を推進した。ただし、円了にとっては、哲学と宗教（仏教）は一つの体の両面なのであり、哲学の実効化とは、いわば哲学としての仏教の実践であった。このことは、円了の膨大な著書に見られる活仏教（仏教の活性化）という言葉に指摘できる。

現代において、円了の説いた思想は、そのままでは受け入れ難いところもあるが、社会や人間に対する基本的な態度は、決して色褪せることがない。

私たちはこの生き方を範とするものである。そこで今、東洋大学の中で仏教青年会の学生諸君とともに、仏教の思想や文化を学び、さまざまな年齢や立場のものが交流し、協力して、研鑽する。その組織的場をつくろうというのが、本会設立の趣旨である。

これを現代的な言い方をすれば、哲学としての仏教という建学の志を基調としつつ、仏教の指向する平和と寛容の精神を養うために、協力する組織を作る。すなわち「活仏教」である。この結びつきにおいて、仏教の思想や文化を中心に、講演会や研究会、交流会や研修会を通じて、お互いに切磋琢磨し、刺激しあって、研鑽する。そうしてこの仲間の中から、社会に向けて発信することができれば、このうえない成果である。

こうして、今、私たちは、一步を踏み出した。どこまでも続く、長い道になるのかどうか、分からないが、この先にある一里の塚を目指して行こうと思う。志ある人たちの参集、ご支援を心よりお願い申し上げます。

---

## 仏教青年会の活動意義

東洋大学仏教青年会会長 櫻井 宣明

東洋大学仏教会・仏教青年会の皆様、本年度の仏教青年会会長を務めさせていただきます、大学院仏教学専攻の櫻井です。年明け以降、仏教会と歩を合わせながら設立準備を進め、4月23日には設立総会と発会式を開催

し、またいま現在は、全体定例研究会や語学勉強会、研修などの種々の行事を実施しています。ひとえに皆様がたのご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

本会は、顧問の渡辺先生と我々学生との間で、仏教を思想と文化の両面から学べるサークルを作りたいという思いから出発しました。あるときには仏教の文献を読み、またあるときには文化として実際に普及している仏教のあり方を体験することが、総体的に仏教を学ぶことに通じると思います。ですから、日常的に仏教文献を読み、積極的に寺院参拝や坐禅会などの研修に参加し、各自が仏教というものを目で見、肌で感じながら、思索を深めていくことを目標としています。

また、仏教会・仏教青年会の会員相互の交流や、他大学の仏教青年会との交流を通じて、ときに刺激し合い、ときに助け合う関係を目指しています。私は、2002年に東洋大学に入学し、以来6年間、インド仏教を中心に学んできました。その間、多くの学友に恵まれましたが、一旦離れてしまうとなかなか交流の場を持つことができず、残念でなりません。本会の活動を通じて、生涯に渡っての仲間を得ることができればと願っています。

将来的には、本会が社会に何らかの形で仏教を発信し、また社会に有用な人材を輩出できればと願っていますが、まずは現実的に我々の立ち位置を見定めての出発となります。現状を鑑みれば、仏教を楽しむことから始める必要があるでしょう。種々、至らぬ点もあるかと存じますが、何卒、今後ともご指導ご鞭撻頂けますようお願い申し上げます。

## ～ 東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会活動報告 ～

### ○ 設立総会・発会式

4月23日(水)、白山キャンパススカイホールにおいて、設立総会と発会式を開催しました。発会式においては、100名を超える関係者の参集のもと、校友会会長の菅沼晃先生の講演「ブリヤートの仏教」と、東方学院院长の前田専學先生の講演「ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と仏教」が執り行われ、最高の形で船出を祝うことができました。ご支援ご参加頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

また今回よりこの機関誌『まいとりい』の場を借りまして、上記にありました前田専學先生の講演内容を連載させていただく予定です。



#### 東洋大学仏教会

|      |                    |
|------|--------------------|
| 会長   | 渡辺 章悟 (インド哲学科教授)   |
| 副会長  | 橋本 泰元 (インド哲学科教授)   |
| 事務局長 | 岩井 昌悟 (インド哲学科専任講師) |
| 幹事   | 山口 しのぶ (インド哲学科教授)  |
| 幹事   | 沼田 一郎 (インド哲学科准教授)  |
| 幹事   | 出野 尚紀 (インド哲学科講師)   |

#### 東洋大学仏教青年会

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 会長  | 櫻井 宣明 (仏教学専攻博士後期課程3年) |
| 副会長 | 板野 義弘 (仏教学専攻博士前期課程2年) |
| 副会長 | 相川 裕保 (インド哲学科4年)      |
| 会計  | 東間 友宏 (インド哲学科4年)      |
| 書記  | 南 浩一 (インド哲学科4年)       |
| 広報  | 藤浪 崇裕 (インド哲学科3年)      |

## 講演「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）と仏教」（1）

（財）東方研究会理事長 前田専學

東方学院長の前田でございます。本日はラフカディオ・ハーンと私との出会いからお話したいと思います。

ハーンと私の最初の出会いは、中学一年の国語の教科書に載っておりました『神々の国の首都』（The Chief City of the Province of the Gods）の抜粋でした。『神々の国の首都』は、ハーンが明治二三年（一八九〇）、四〇歳のときに来日して、松江の中学校へ英語の教師として赴任し、宍道湖の湖畔で迎えた夜の第一印象を綴ったものです。

ハーンの研究として著名な平川祐弘氏の『小泉八雲—西洋脱出の夢—』（新潮社、一九八一）の「あとがき」を見ましたら、やはり平川さんもハーンをはじめて読んだのは中学一年の国語の教科書だったとありました。同じ世代の同じ経験を持った方でございます。

私はその後、折に触れて小泉八雲の作品を読む機会はありましたが、特に研究してみようと考えてはおりませんでした。ところが、二十数年前のある出来事から、とくに来日前のハーンについて関心を持つようになりました。

そのきっかけをつくってくださったのは、千葉県八日市場市の布施郁三氏という眼医者の方でした。私が教鞭を執っておりました東京大学文学部に億単位の多額の寄付をしてくださった方です。文学部というよりむしろ印度哲学研究室に寄付したいというご意向があったことから、当時、印度哲学研究室の主任教官をしておりました関係上、私に氏との折衝やお金の運用の責任がまわってきまして、亡くなるまでの八年間お世話になりました。

布施氏は多額の寄付の理由として、このように述べておられます。

「私は東京大学医学部を昭和四年に卒業しましたが、文学部とは直接の関係はありません。しかし旧制二高の学生時代に白井成允先生、東大では宇井伯寿先生などから仏教の講義を聴き、大変な感銘を受けました。今日になってもその時の感激は忘れることができません。私ども日本人は古代から豊かな仏教思想・文化の中に生き、聖賢の深い智慧の恵みに浴してきました。今は科学技術の発展には目を見張るものがあり、物質文明は驚異を与えます。しかしその輝きの陰に入って精神文化は顧みられず、衰微しようとしています。

私は多感の頃、仏教によって精神的孤独から救われました。人格の尊さと連帯性の限りなさを教えられました。……仏教精神は物質文明による人間の変態化を救うものであります。私は自分自身のいのちのために、また救われて喜ぶ友人の尚多からんために、仏教の伝統が守られ、また栄えんことを念願します。

この願いを以て、私の先祖が残してくれた財産と私個人の財産とを、東大文学部に寄託し、仏教等の精神文化の高揚と研究に役立たせていただきたいとお願い申し上げました。」

布施先生はけっして能弁ではなく、むしろ訥々と話される方でした。ある日、その先生から、唐突に、何の脈絡もなく、「小泉八雲は仏教徒であったか？」と、私に質問の矢が飛んでまいりました。しかし当時の私はハーンといえば、『雪女』や『耳なし芳一』などの怪談の作者である、くらの理解しかありませんでしたので、返答ができなかったことをいまでも痛烈に憶えております。このことが契機となって少しずつ勉強を始めたわけです。

では、ハーンが日本にやってきた動機は一体何であったか。（以下、次号につづく）

（要約：南 浩一、永田道子）





## ○ 「チベットの晩課」に参加

5月10日(土)、仏教会・仏青会員15人は、文京区音羽の護国寺大師堂で行われた「チベットの晩課」に参加しました。当日は生憎の雨模様でしたが、午後7時を過ぎて始まった法要では、数多くの蝋燭で堂内が照らし出され、雑踏とした都会にいたとは思えない厳かな雰囲気を楽しむことができました。参加者全員で中国・チベットの平和を祈願して般若心経を唱え、法要後には在家チベット人との意見交換の場を得ました。



## ○ 浅草参拝



6月8日(日)、宮本久義先生の案内の下、仏教会・仏青会員15人は浅草を参拝見学し、浅草寺一山や浅草神社、駒形堂、太鼓館などを巡りました。とくに浅草寺本堂では夕座のお勤めに参加するなど、浅草界限に伝わる宗教文化と歴史を学ぶ機会を得ました。

写真は太鼓館での一コマです。館内に展示してある大太鼓・小太鼓を皆で演奏しました。

## ～ 書籍・イベント紹介 ～

### 《書籍》

#### ・『歎異抄略註』

多屋頼俊/著 石橋義秀/監修・菊池政和/監修

国語学者多屋頼俊が、必要不可欠な註のみを厳選した幻の名著、待望の復刊。

(法蔵館 1,890円)

・『石山寺資料叢書』 第Ⅱ期(全11巻) 文学篇第三石山寺文化財総合調査団/編

国宝、重文に指定された宝蔵のうち日本漢文学作品の『大師文章』と『本朝文粹』を収録。

(法蔵館 11,025円)

#### ・『善導の宗教—中国仏教の革新—』

佐藤成順/著

中国唐代に浄土教を広めた、中国仏教の革命児とも言える僧・善導の生涯と思想をたどる。

(中山書房 945円)

・『般若波羅蜜多心經幽贊』

北堀一雄/著

正蔵第三十三卷所収の「幽贊」を底本とし、正蔵の頁・段を記す。

(中山書房 7,350 円)

・『今日を生きるブッダのことは —スッタニパータ篇—』

宮坂宥勝/著

日常生活に即した「珠玉の教え」の宝庫です。

(春秋社 1,680 円)

・『ダライ・ラマ 愛と非暴力 〈普及版〉』

ダライ・ラマ 14 世/著 三浦順子/訳

ダライ・ラマが、チベット仏教の真髓を平易に語った好評の講演集。

(春秋社 1,575 円)

・『良寛さんの愛語』

新井満/自由訳

(考古堂書店 1,470 円)

・『坊主のぼやき』

川西蘭/著

新米坊主のトホホな日々を描く笑劇のエッセイ。

(新潮社 1,365 円)

・『禅の思想辞典』

田上太秀/編著 石井修道/編著

禅の思想に関わる約 2000 項目を解説したほか、禅思想の流れを概説した総合的辞典。

(東京書籍 12,600 円)

・『実修 法華経』

延暦寺学問所/協力 清水宗純/音楽

聴いて・読んで・観る、新しい『法華経』である。

(学習研究社 6,090 円)

・『僧侶と哲学者 チベット仏教をめぐる対話』

ジャン=フランソワ・ルヴェル/[述] マチウ・リカール/[述]

菊地昌実/訳 高砂伸邦/訳 高橋百代/訳

(新評論 3,990 円)

・『智の極み 禅問答 いのちの真実を引き出す論理』

中野東禅/編著

幾多の悩みや苦しみから私たちを解放してくれる、60 話の禅問答をわかりやすく解説。

(心交社 2,100 円)

・『日蓮聖人『歎心本尊抄』を読む』

北川前肇/著

日蓮聖人の著作『歎心本尊抄』について、丁寧にわかりやすく解説。

(大法輪閣 2,625 円)

・『仏教聖典』

東京大学仏教青年会/編修

インド・中国・日本の主要な仏典の真髓を抜粋収録。すべてに読み仮名付き。

(三省堂 7,980 円)

・『もう殺さない ブッダとテロリスト』

サティシュ・クマール/著 加島牧史/訳

加害者と被害者、差別する人とされる人、両者の壁を乗り越えるための、仏教のこころ。

(バジリコ 1,575 円)

・『在家仏道入門』

田原亮演/著

著者三十三年間の蓄積された宗教体験と境地の深まりが教える無尽の世界。

(東方出版 1,575 円)

・『ブッダの母、マヤ夫人(仮)』

益田晴代/著

偉大なブッダの母、仏母マヤ夫人はどのように愛児を育てたのか。「親と子」、「子育て」について考察する。

(講談社 1,470 円)

## 《イベント》

夏から秋にかけて行われる仏教イベントです。野外フェスティバルも良いですが、こちらが良いのではないのでしょうか。

フェスティバル一発目は親鸞です。

### ●「親鸞思想の解明 第17回」

日時：7/22 18:30

会場：東京国際フォーラム G402

講師：本多弘之

演題：浄土を求めさせたもの 『大無量寿経』を読む

主催：親鸞仏教センター

続いて、我が東洋大学教授、竹村先生です。

### ●「在家仏教講演会」

日時：7/26 10:00

会場：大手町ビル

講師：竹村牧男

演題：大悲ものうきことなし 大乘仏教のこころ

主催：在家仏教協会

泣いて笑ってしまおう。

### ●高野山真言宗神奈川自治布教教団第12回なごやか法話寄席

日時：9月30日 13:30

会場：横浜にぎわい座 芸能ホール

(桜木町駅徒歩5分)

入場料：全席自由 3000円

法話 美濃国分寺住職、河合了栄 僧正落語 瀧川鯉昇師匠  
三遊亭鳳志さん

※お問い合わせは神奈川高野山真言宗神奈川自治布教教団のホームページのメニューより、メール送信にてお願いいたします。

<http://www.koyasan.ne.jp/kng-jifudan/>

初心者の方は・・・

### ●仏教入門講座

日時：7月～2009年3月は13:00～14:30 木曜日

会場：佛教大学

受講料：一回1000円 定員：各回150人(当日先着順) 全12回予定

・7月31日：自由思想家達の登場 六人の外道

講師：田中 典彦 (佛教大学文学部教授、副学長)

・8月28日：ブッダとは誰か？

講師：吹田 隆道 (佛教大学講師)

・9月11日：ブッダの誕生

講師：吹田 隆道 (佛教大学講師)

・10月2日：菩薩の苦悩 (出家)

講師：吹田 隆道 (佛教大学講師)

お問い合わせ：佛教大学

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96  
075-491-2141(代)

最後はチベット仏教です。前行といわれる金剛薩埵の百字真言などをお試しあれ。

### ●東京ゾクチェンセンター前行会

日時：8月30日

会場：明王院 (真言宗豊山派五大山明王院) 本堂

東京都港区三田 4-3-9

※高輪白金駅から国道1号線を正満寺と逆方向に進んでください。

徒歩5分程度

開場 9:30～

①10:00～12:00：前行1回目

②12:00～13:00：休憩 昼食

③13:00～15:00：前行2回目

④15:00～16:00：休憩 軽食

⑤16:00～16:15：ソジョーン (懺悔会)

⑥16:20～18:00：前行3回目

参加費用：お寺の賽銭箱への自由布施

お問い合わせ：同センターへメール  
([tokyo@dzogchencentre.org](mailto:tokyo@dzogchencentre.org))

※当日の対応は、携帯 080-3382-2095 090-9803-7906で致します。

他にもありますが、掲載できません。残念です・・・

「仏報ウォッチリスト」を参考にして下さい。

<http://d.hatena.ne.jp/buppo/>

## ～ 夏季研修・9月（参加者募集中）～

東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会では、学生の夏休み機関を利用して研修旅行を行います。  
ただいま参加者絶賛募集中です。

## 東洋大学仏教青年会・仏教会 ～ 群馬研修旅行 ～

### 吉井の歴史と徳川の葵祥の地・縁切寺

TBA と YMBA の交流をかねて渡辺先生の縁のあるお寺（仁叟寺）で親睦を深めることが目的です。また坐禅をしたり、縁切寺などを見たりして仏教文化に触れることをします。参加者を募集しますので、希望者は7月29日（火）までにお申し込み下さい。

日時：2008年9月18日（木）・19日（金）

※当初お知らせした日時を変更させていただきますのでご了承下さい。

参加限度人数：39名（先着順）

参加費用：7000円（吉井駅までは実費です）

申し込み締切日：7月29日（火）必着

連絡先：相川裕保

住所：東京都足立区千住桜木2-8-7 福田荘201

電話：090-1841-6404 メール：omodon@hotmail.co.jp

※費用は当日支払いでお願いします。

※定員になり次第、申込を締め切らせて頂きます。

※キャンセルは一週間前（9月11日）までとさせていただきます。それ以降の方はお支払いをお願いします。

#### スケジュール

・1日目：10：20 高崎駅 集合

→吉井駅→仁叟寺→吉井町郷土資料館→多胡碑記念館を見て吉井町の歴史に触れます。その後、仁叟寺に戻って総会→坐禅→勉強会をします。

・2日目：

仁叟寺→相川考古館→長楽寺→東毛資料館→世良田東照宮→満徳寺（縁切寺）

→深谷駅 解散

※ 仁叟寺・・・渡辺先生の縁のあるお寺。ここで坐禅や勉強会をします。

※ 吉井町郷土資料館・・・吉井の歴史を知ることのできる場。吉井は昔、火打金の特産でした。

※ 多胡碑記念館・・・日本三大古碑の一つがここにあります。

※ 相川考古館・・・伊勢崎町の脇本陣です。国指定重要文化財の埴輪（4点）があります。

※ 長楽寺・・・徳川家縁のお寺。東日本で最初の禅宗のお寺です。

※ 世良田東照宮・・・徳川家と縁のある東照宮です。全国に130あるうちの一つです。

※ 満徳寺（縁切寺）・・・関東には鎌倉の東慶寺と2カ寺しかない縁切り寺です。



～ 創刊号コラム：寺社紹介 ～

## 千マタのお寺にぶら～と。

先日、品川宿周辺のお寺を巡りました。巡ってみると、東京であることを忘れてしまうような長閑なお寺がありました。訪れたお寺は「東海寺」、寛永 15 年（1638）沢庵和尚を開山として 3 代将軍徳川家光によって創建されたお寺です。

東海寺：

臨済宗大徳寺派万松山。臨済宗京都紫野大徳寺の末寺。

開創：寛永 15 年（1638）。開山：澤庵宗彭。開基：徳川家光。

品川は東海道最初の宿場、品川宿として栄えました。品川宿には江戸時代以前から建てられたお寺が多いですが、東海寺は江戸時代に建てられたお寺です。

東海寺は広さが 4 万 7 千 6 百坪余り（約 18 万 5 千平方メートル）と広大なものでしたが、開創当時は、山門も本堂もなく、沢庵屋敷と呼ばれていました。しかしその後、塔頭が次々と建てられ、元禄時代に火災に遭ってからは山門や本堂が整備され、大伽藍になっていきました。明治に入ると寺領が新政府に接収されてしまったため衰退しました。

境内には区指定の梵鐘や原爆慰霊碑があります。ちょうど行った時季が紫陽花の時季だったので綺麗な紫陽花の花を見ることが出来ました。

記) 相川裕保 6/16

### <文化財>

東京都指定文化財

・ 沢庵和尚画像 - 江戸時代

品川区指定有形文化財

・ 梵鐘 - 元禄 5 年（1693 年）

所在地：東京都品川区北品川 3 - 11 - 9

アクセス：京浜急行新馬場駅徒歩 5 分

連絡先：03-3471-6943



## ～ 東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会、今後の予定 ～

※勉強会についてのお問い合わせは 10 p の連絡先をお願いいたします。（会員は無料です。）

### 《定例全体研究会》

こちらの勉強会では毎回、仏教青年会・仏教会からの報告を行います。これに加え、渡辺章悟仏教会会長の講義「大智度論を読む」を開催します。また第 6 回には、バイカル先生による特別講演をしていただきます。

第 3 回 7 月 30 日（水）16 時 20 分～17 時 50 分、第 3 会議室（白山校舎 6 号館 1 階）。

第 4 回 8 月 9 日（土）15 時 30 分～17 時 00 分、6405 教室（白山校舎 6 号館 4 階）。

第 5 回 9 月 18 日（木）※群馬研修において。

第 6 回 10 月 25 日（土）15 時 00 分～17 時 00 分、バイカル先生（桜美林大学准教授）講演「モンゴル仏教の今」、会場未定。

## 《語学勉強会》

### ○サンスクリット語文献の読書会

秋学期開始日：9月30日（火）

講師：出野尚紀

日時：隔週水曜日13時～14時30分

場所：文学部会議室（白山校舎6号館4階）

内容：インドの説話文学の講読。初級者も参加可能。

※初回だけ火曜日、2回目の10月15日（水）以降は水曜に開催。



### ○チベット語仏教文献の読書会

秋学期開始日：10月11日（土）

講師：石川美恵

日時：毎月第2・第4土曜日14時～15時30分

場所：インド哲学科共同研究室（白山校舎6号館4階）

内容：初等文法を兼ねたチベット語仏教文献の講読。初級者も参加可能

### ○漢文仏典講読会－『成唯識論』を読む－

秋学期開始日：10月9日（木）

講師：橘川智昭

日時：隔週木曜日14時40分～16時10分

場所：インド哲学科共同研究室（白山校舎6号館4階）

内容：『成唯識論』を読みながら、漢文と仏教思想を学ぶ。初級者も参加可能

※日程については要確認

---

※現在新入会員を募集しています。入会希望者は以下までご連絡下さい。

※会員規約や活動内容などの詳細はホームページ（<http://www.toyo-ymba.org>）をご覧ください。

※ニューズレター送付の不要な方はお手数ですがご連絡下さい。

#### 東洋大学仏教会

卒業生、一般：年会費 3000 円、特別賛助一口 5000 円

東洋大学仏教会事務局長 岩井昌悟

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学インド哲学科第8研究室気付

Tel: 03-3945-7393(-7357) E-mail: [tba.bussei@gmail.com](mailto:tba.bussei@gmail.com)

#### 東洋大学仏教青年会

学生：年会費 1000 円

東洋大学仏教青年会会長 櫻井宣明

[db0600029@toyonet.toyo.ac.jp](mailto:db0600029@toyonet.toyo.ac.jp)

URL: <http://www.toyo-ymba.org>